

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)
授業科目名: 子どもの健康と安全 英語表記: Child Health and Safety ナンバリング: 2314		単位数: 1単位 (半期) 演習	担当教員名: 片口 桂 担当形態: 単独
科目／系列	／保育の内容・方法に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等／教科目	／子どもの健康と安全		
【授業の到達目標及びテーマ】			
1. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について理解し、説明ができる。 2. 関連するガイドラインや近年のデータを踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について具体的に理解する。 3. 子どもの健康や安全の管理に関わる組織的な取組や保健活動の計画・評価について理解する。			
【授業の概要】			
保健的な観点に基づく環境整備や心身の健康・安全管理の実施体制など、実践的な力を習得する科目である。アレルギー対応、感染症対策、事故防止、事故発生時の対応などについて、関連するガイドラインや近年のデータに基づいて具体的に理解していく。子どもの健康や安全の管理に関わる、組織的な取組や保健活動の計画・評価等についても理解する。 応急処置演習も行い、実践的な技術を獲得する。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】		【授業時間外の学習】	
第1回: 子どもの健康と保育環境を学ぶ 第2回: 子どもに関する個別対応と集団全体の健康及び安全管理を理解する 第3回: 保育における健康及び安全の管理・衛生管理を学ぶ 第4回: 事故防止及び安全対策について具体的に学ぶ 第5回: 危機管理・災害対策について具体例に学ぶ 第6回: 子どもの体調不良・傷害発生時の適切な対応と応急処置①を学ぶ 第7回: 子どもの体調不良・傷害発生時の適切な対応と応急処置②を学ぶ 第8回: 子どもの感染症集団発生の予防について理解する 第9回: 感染症発生時と罹患後の対応を学ぶ 第10回: 保育における保健的対応の基本的な考え方を理解する		予習は、教科書を読みわからない言葉を調べておく。復習はポイントをまとめ、演習課題、小テストの見直しを適宜行い実習時や普段の生活に活かすことができるように学んでおく。 乳幼児の保健や安全に関する報道について意識的に把握して考える習慣を身に付ける。課題は提出期限をまもる。 標準学修時間の目安: 演習手順や講義内容の予習、復習、宿題を含めて 60～120 分程度の時間が必要である。	

第11回：3歳未満児の養護の観点における保健的対応を学ぶ 第12回：個別的な配慮を必要とする子どもへの対応を学ぶ① 第13回：個別的な配慮を必要とする子どもへの対応を学ぶ② 第14回：保育における保健活動の計画及び評価を理解する 第15回：保育活動における職員間の連携・協働と関係機関との連携について学ぶ 定期試験：筆記試験	
【授業の方法】 講義PBL（課題解決型学習）適宜グループワークを行う。 学生の疑問・質問にはリアクションペーパーも活用し個人または全員にフィードバックする。	
【テキスト】 『子どもの健康と安全演習ノート』 小林美由紀編著 診断と治療社	
【参考書・参考資料等】 『教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン』内閣府・文部科学省・厚生労働省 『保育所における感染症対策ガイドライン』厚生労働省、 その他、適宜、参考資料を配布、紹介する。	
【学生に対する評価】 定期試験（60%） 課題提出（20%） 演習・授業参画度（20%）。 ルーブリック評価も活用し総合評価する。	
【履修上の注意】 講義・演習ともに積極的、主体的な姿勢で取り組むこと。演習の際は実践同様に取り組み、対応を間違いなく身につけるようにする。安全管理・危機管理は予測・推測が重要になるので多角的に考える姿勢を身に着けられるよう学ぶ。授業中のスマホ操作、写真・動画撮影、通信操作、音楽を聴きながらの受講は禁止とする。	
実務経験の有無：有	実務経験：保育所 児童発達支援事業所
【実務経験を生かした教育内容】 子どもの施設における保健活動の経験を活かし、現場で実践できる知識、技術を習得できるよう、わかりやすい授業を行う。	